

イスラームにおける性的平等の概念

(パート1/2) : 生理学



平等性の概念と、それがいかにイスラームにおける男性と女性に関連付けられているのかということを議論する前に、私たちは重要な区別をしなければなりません。平等について話す多くの人々は、そのことが両集団を全く同様に扱うことで反映されなければならない、と考えています。しかしこれは明らかに、必ずしも適切な行為ではありません。ごく少数の人々にしか相応しくないような一つの基準に彼ら全員を従属させるのではなく、人々のニーズ、強さ、能力と障害に関して融通を利かせて捉え、考慮しなければなりません。

このように、私たちは表面的かつ手続き上の平等と、実質的な平等 - つまり正義 - の区別をする必要があります。多くの社会は、重要なことは表面的かつ手続き上の平等に的を絞ることではなく、全市民に実質的な平等を提供することであると認めています。そして、それは彼らのニーズと状況に応じて、彼らを公正に扱うことなのです。人間は、実質的な平等が公正さを導くと見なしているゆえに、毎日の実質的な平等を手続き上の平等よりも好みます。私たちは、私たちの仕事場、学校や商業地域において、障害をもった人々を受け入れます。また私たちは、裕福な者が課税の対象となる一方で、社会における貧困者が社会福祉的配慮を受ける必要があることを認めています。私たちは、その人生において感情的・精神的・身体的困難を感じている人々に、特別な配慮と考慮を施します。そしてこれらの全ては、実質的な平等、公正と正義なのです。

男性と女性

男性と女性に関しては、誰しものが彼らの間に議論の余地のない固有の相違点があると認めています。彼らは同一ではありません。男性と

女性は、様々な点で自然に異なるのです。それゆえ、それらの違いをおろそかにし、彼らが互いに同様ではない問題において単一基準を主唱することは、論理的なことではありません。それは手続き上の平等ではあるかもしれませんが、実質的な平等ではないのです。例えば妻が妊娠している時、その夫が彼女に対して、彼と同じくらい一生懸命働くように提案することは、正義ではありません。むしろ彼女の妊娠における負担と、夫がそれに応じて物事を調整することの必要性を認識することによって、正義が行使されるのです。男女間には、明らかな生物学的相違点があります。男性は月経も出産も経験しませんし、女性は一般に男性より長生きし、男性に比して老年期の健康問題が少ない傾向にあります。AARP会報は、男性と女性の8つの健康的相違点に関する記事を発表しました：[\[1\]](#)

健康に関し、男女間の相違は、年度検査と必要な処置を得ることに對する彼らの態度のみに留まらず、非常に広範です。男性が医者への予約を取るにあたって2、3の理由を必要とする場合に備えて、以下の事柄を考慮しなければなりません

- ・ アメリカ合衆国における男性の平均寿命は74.4歳であり、女性の平均寿命である79.8歳よりも5年短い。
- ・ 癌による死は、男性の方が多い。
- ・ 65歳以前に心臓病によって死に至るケースの70%は、男性である。
- ・ 睡眠中に一旦呼吸が停止しては再開する、という危険な障害の可能性のある睡眠中の無呼吸症は、女性よりも男性に多く見られる。
- ・ 自殺死する男性は、女性に比して4倍もの数に上る。尚自殺は、男性の死因の第8番目に位置づけられる。
- ・ 男性は40歳以降、女性に比して冠狀動脈性心臓病になる確率が50%も高い。
- ・ 感染に対して抵抗するT細胞は、女性よりも男性の方が少ない。
- ・ 100歳に達する女性は、男性に比べて8倍も多い。

オリンピックでは、男性と女性は生理的違いのため、別に競争します。18歳の時、平均的女性の身長は64.4インチ（約164cm）、体重は126.6ポンド（約57.5kg）ですが、平均的男性の身長は70.2インチ（約178cm）、体重は144.8ポンド（約66kg）あります。体重に比した全身の筋肉量において、男性は女性よりも50%勝ります。また平均的女性の心臓

は、平均的男性のそれより25%小さいです。そして女性は、男性よりおよそ10%多くの脂肪を有します。[2]

一方学問の分野においては、女性は言語や人文科学といった科目において、男性よりも一般に高い得点を獲得します。そして数学と科学においては、その逆の現象が観察されます。いずれの性にも、独特の強みと能力があるのです。男性と女性の精神的な違いに関して、「男性と女性は本当に違った風に考える（Men and Women Really Do Think Differently）」という表題をつけられたある記事には、以下に示す最近の神経学的調査が引用されています：

カリフォルニア大学アーヴィン校の心理学教授リチャード・ハイエル氏は、ニューメキシコ大学からの同僚との共同研究を行い、以下のような調査結果を報告しました：男性は、一般的な知性と関連している灰白質に関し、一般に女性のほぼ6.5倍の量を有しています。しかし一方で、女性は知性と関連のある白質に関しては、男性よりもほぼ10倍の量を有しています。...灰白質は人間の脳において情報処理センターの役割を担いますが、白質はこれらの処理センターをネットワーク化する役割を果たしているのです。

ニューメキシコ大学の神経心理学者である共著者のレックス・ユングは、こう言っています：「この研究から導かれた結果は、男性と女性がなぜ異なる種類の仕事において優れているかを説明してくれるかもしれません。」ユングは言います：「例えば男性は、数学などの、より局所化された処理が要求される仕事により秀でる傾向があります。一方女性は、その脳に広く分布する灰白質層（言語技術などを促進します）から情報を集積し、融合することをより得意としているのです。」[3]

また「今日の心理学（Psychology Today）」に掲載された別の記事は、男女間の相違を「不可避なるもの」と形容しています：

言語、そして運動技能に寄与する手の運動に関して言えば、男性に比して女性の脳の方が非常に集中的に組織化されているようです。これは、一般的に女兒の方が早期に喋り出し、より明晰に話し、かつ手を用いた運動技能においてより優れた能力を有している、という事実に関連していると言えるでしょう。また女性における右利きの割合は、男性に比べて明確に大きなものです。男性と女性は、全体的な語彙能力において異なるわけではありませんが、言葉の定義など特定のより抽象的な仕事に関しては、女性の脳は男性のそれより拡散的に組織化されているのです。

...カリフォルニア大学バークレー校の神経心理学者マリアン・ダイアモンドは、雌雄のネズミの脳皮質の厚さを比較し、女性ではある年齢においてのみ左脳皮質が厚くなる一方、男性では大方の年齢において右脳皮質が厚いことを発見しました（1984年11月号の「今日の心理学（Psychology Today）」内、「脳による情事（A Love Affair with the brain）」をご覧ください）。...男性と女性が遺伝的・生理的に、そして心理的に多くの重要な点において相違することは、避けられない事実であるようです。[4]

現代の心理学的研究は、行動パターンにおいて最も明白なものから、群衆の中の怒った顔を見つけるなどといったものと同じくらい些細なものまで、男性と女性の違いを明らかにし続けています。2つの性のそのように明らかな相違を考慮してみれば、男性と女性が同一の役割を引き受けることは不適切でしょう。ニューヨーク・タイムズ紙の女性の健康に関する記事の中で、以下のような言及がありました：

男性が出来ることは女性にだって出来る、というフェミニスト的前提と対照的に、科学はある種のことに限って言えば、女性の方がよりよくこなすことが出来ることを証明しています。そしてまた、女性には男性に勝る多くの生物学的、及び認識力的利点が備わっていることも証明しているのです。しかしその反面、女性が男性と同様に出来ないことも存在します。[5]

神は私たちを相異なる形に、しかし力や能力においては互いに補足し合うように創造されました。成功するにあたり、男性が女性を不必要とすることも、またその逆もないのです。

Footnotes:

[1] 「男女間の8つの健康的相違（8 Health Differences Between Men and Women）」 Gaby Gollub 著（<http://www.aarp.org/bulletin/yourhealth/Articles/a2004-02-17-8diff.html>）。

[2] Performance Moderator Functions for Human Behavior Modeling in Military Simulations (ADDENDUM) Adrenaline – Khat – Exertion, Chang Y Chung, Dr. Barry G. Silverman, Jason Cornwell.
(http://64.233.167.104/search?q=cache:OYtYvD7FS3QJ:www.seas.upenn.edu/%7Ebarryg/P MF_Addendum1.doc)

[3] 「男女は本当に違った風に考える（Men and Women Really Do Think Differently）」 Bjorn

Carey著、LiveScience社(http://www.livescience.com/humanbiology/050120_brain_sex.html)。

[4] 「男性の脳、女性の脳：秘められた相違 (Male Brain, Female Brain: The Hidden Difference) 」 *Psychology Today* Nov, 1985

[5] 「ニューヨーク・タイムズ」 (<http://www.nytimes.com/specials/women/nyt98/21saga.html>)

(パート2/2) : 男女の実質的平等

イスラームは、男女間に存在するいくつかの身体的相違とは別に、彼らが神の御前において精神的に完全なる平等を享受すると認識しています。クルアーン（コーラン）とスンナ（預言者ムハンマドの言行集）は、来世における報奨や懲罰において、人の性は全く問われないことを明白に言明しています。

「われ（神）は、男であれ女であれ、あなた方の内の行う者の行為を無駄にはしない。あなた方はお互いに、同じ子孫なのである。」（クルアーン 3 : 195）

「男であれ女であれ、信仰者で善行を行う者は、天国に入るであろう。そして彼らは、いかなる不正を蒙ることもない。」（クルアーン 4 : 124）

「男であれ女であれ、善行を行う信仰者には、われら（神）がよい暮らしを送らせよう。そして彼らが行っていたものに対し、最良の報奨をもって報いよう。」（クルアーン 16 : 97）

「“悪事を行った者は、それと同様のものでもって報われる。そして男であれ女であれ、善行を行った信仰者は、天国に入るであろう。彼らはそこで、無限のお恵みを授けられるのだ。”」（クルアーン 40 : 40）

「実に、ムスリムの男女と信仰者の男女、従順な男女と真摯な男女、辛抱強い男女と畏れ深い男女、よく施す男女とよく齋戒する男女、貞節を固守する男女と神をよく想起する男女には、神が罪のお赦しと偉大なる報奨を授けられるであろう。」（クルアーン 33 : 35）

「人間よ、実にわれら（神）はあなた方を一組の男女から創った。そしてあなた方を多くの民族や部族に分け広げた。それはあなた方が互いに知り合わんがためなのである。実に神の御許で最も貴い者は、あなた方の内で最

も敬神の念の強い者。アッラーは全てをご存知になり、
全てに通曉されたお方。」（クルアーン 49：13）

こうしてイスラームは、男女が神の御前で平等な地位と価値を有すること、そして敬神の念こそが個人間に区別をつけるものであることを明瞭に宣言しているのです。

法的かつ実적인側面において、一般的規則は男女の別なく同様に適用されます。また崇拝行為や、イスラーム的作法・行儀に関しても、男女の違いはありませんし、法的な刑罰に関しても同種のもので科せられます。しかし男女によって法規定が異なるケースも、数多く存在します。例えば女性は月経期間中、齋戒（断食）と礼拝の義務を免除されます。また女性は自分自身を美しく装うことがその天性として備わっていることから、金や絹を身にまとうことを許されますが、男性にはそうすることが禁じられています。また金曜日の集団礼拝は男性には義務づけられていますが、女性に関しては任意の行為です。また男性は自らが扶養する家族にお金を費やさなければなりません、女性のお金は完全に彼女らの所有物であり、それを好きなように用いることが出来ます。また男性と女性の身体的様相が異なることから、衣類に関する条件も異なります。そしてこれら全ては、男性と女性の自然な相違を反映したものです。イスラームが最も些細な法学的問題においてでさえも、男女をそれぞれ固有の違いに応じて、そして実質的な平等に従って正義ゆえに扱うのは、こういうわけなのです。

結論として、イスラームは男性と女性の絶対的な精神的平等を主張し、神の御前において彼らに平等な地位を与えます。そして法学的問題においては、イスラームは男性と女性の実質的な平等を促進し、また各々に備わった独特の強さと能力を認め、両者の権利を保護しつつ適切な規定を与えているのです。